

アーティストインタビュー

川口晃平 KOHEI KAWAGUCHI

小金井市出身の能楽師・川口晃平さんによる『こがねい春の能』。小金井宮地楽器ホールならではの空間でくりひろげられる充実した舞台で、毎年能楽ファンを増やし続けています。能楽の魅力を広く伝えたいと願う川口さんに、能との出会いから公演にかける思いまで、さまざまなお話をうかがいました。



いにしえへの憧憬 能面に魅せられて能楽の道へ

「私がいまこの仕事をしているのには、小金井という土地で育ったことが少なからず影響しています」—— こう語るの、シテ方観世流能楽師の川口晃平さんです。川口さんは、この春に6回目を迎える『こがねい春の能』で、能〈自然居士(じねんこじ)〉の主演を演じます。

川口さんは地元・小金井第四小学校のご出身。放課後には小学校の裏手にある貫井神社の境内を駆けまわって遊ぶ毎日だったといいます。そんなある日、ある出来事が……。 「校庭を裸足で走っていると、瓶の欠片のようなものを踏んで怪我をしたんです」。振り返ると土にキラリと光るものが見えた。掘ってみたところ、出てきたのはなんと、矢じり！ 「このあたりには旧石器時代から人が住んでいたと聞いていましたが、まさか彼らが放った矢が数世紀を経て私に命中するとは」。古いものに対するあこがれは幼少期からあった。でもこの時に「自分はこれから、日本の古い文化に向き合って生きていくのだろうと確信しました」

漠然とした思いを持ちながら、高校時代までは「父(漫画家・かわぐちかいじ)の影響もあって、絵描きになろうと思っていた」という川口さん。そのような時に一冊の能面の本と出会います。「日本人が西洋を意識して『芸術』を追求するようになる前の時代に、こんなにも深い人間への洞察と表現があったのかと…… その造形に衝撃を受けて。これが舞台でどう使われるのか、とにかく能というものを一度見てみたいといけないうと、美大受験をやめて能楽サークルがある大学を探しました」。そこで、後の師匠・梅若六郎(現・桜雪)師の舞台に巡りあう。「忘れもしない大学一年生の7月7日、師匠の〈楊貴妃〉を拝見しました。それまでもさまざまな方の舞台を見ていましたが、師匠の舞台はもう圧巻で。正直、同時代の表現者—— 音楽、文筆、造形、申し訳ないけど漫画も含めて、この梅若六郎ほど人を感動させられる人間はいないと思いました」。後になって、高校時代に進路を変えるきっかけとなった能面の本は梅若六郎家のものだったと知ります。浪人中にむさぼるように読んだ本でも「なぜか師匠の姿だけ浮かび上がって見えました。きっと導かれていたんだと思います」。かくして大学卒業後に梅若六郎家に入門。能楽師として歩みはじめました。

美しさを追求した上演空間 能楽ファンを増やしたい

今年の上演曲を能〈自然居士〉に決めたのも、「師匠の背中を追いきたい」という想いがあってのことです。劇中でのみどころのひとつが主役の自然居士とワキ方演じる人買いととの激しいやり取りで、「梅若

六郎とワキ方・宝生閑の〈自然居士〉、といえど一時代を作るくらいのインパクトがあって、私もそれをずっと見てきました。そのあこがれの舞台を目標に、おこがましくいえば追体験したいと思っています」。今回、人買いを演じる御厨誠吾さんは宝生閑師門下。さらに「私と同じく能の家の生まれではなく、お互いお能が好きでこの道に入った仲間。一生切磋琢磨していきたいお相手です」

上演空間も工夫されています。「能はふだん能舞台で演じられますが、ここはホール。それを逆手にとって能舞台にはない美しさを出したいと考えました。ステージの木肌を生かすために所作台は敷かず、3メートルほどのガラスの柱に照明をあてて舞台を象ります。背景には美術家・阿部朱華羅SCARAさんによる5メートルにおよぶ墨絵の軸を3本、毎年上演される能をイメージして描き下ろしていただいています。能の上演前に舞台が暗転してスルスルと軸が降りてくる様はなかなか見物ですよ」。まさに川口さんならではの世界観の中での演能です。「〈自然居士〉は能の中でもかなり演劇的な人気曲。ストーリーも明快ですし、動きも活発なので、能を見馴れていない方でも楽しんでいただけるはずですよ」。なお今年も公演に先立ち、おもしろい！、と評判の事前講座が用意されています。

ところで、冒頭の話にはじつは後日譚があります。偶然にも矢じりを発見した川口少年は、その後、小学校裏手の林を掘り返して土器や貝塚を見つける—— が、その好奇心が仇となり、学校の先生にひどく叱られたそう。そんなエピソードを話しながら、川口さんは続けます。「奈良や京都というのでないけれど、小金井にも連綿と人が住んできた痕跡があって、物心ついたときから感じていたその空気が私の源泉にある気がしています。時代がうつろう中でもかわらない人の想い、そのころを能を通じて感じていただければうれしいです」



第六回 こがねい春の能 〈共催〉

2025年4月5日(土) 17:00開演 大ホール
1階 指定S席6,000円、1階2階 指定A席5,000円、
2階 自由B席3,500円、学生席(自由席)2,000円
【出演】川口晃平(能楽師)ほか 【演目】能「自然居士」、狂言「寝音曲」ほか
【申込】同ホール2階事務室(現金のみ)または
カンフェティチケットセンター(☎050-3092-0051 平日10:00~17:00)ハ

第六回 こがねい春の能 事前講座

2025年3月25日(火) 19:00開演 小ホール
【全席自由】1,000円 要事前申込 ※本公演のチケットをお持ちの方は無料